

①キャンペーン盛り上げのアプローチ方法について 1 / 2

※○第1回専門部会での意見 ●意見票に記載の意見

【更なる盛り上げのアプローチ】

- 去年、スタッフが、芋づるにカウントダウンするような投稿を始めて、一日一人、毎日誰かが順番に上げてバトンパス形式で投稿したのは、取組として面白いと思った。今年は他の事業所にも取り入れていきたい。
- 実際に養成施設などで学んでいる学生の話は重要だと思う。今年は養成施設にも協力してもらい、なぜ私が福祉を学ぶのかとか、教員側はなぜ福祉に携わる学生を育てるのかという生の声をPRする取組はいいと思う。
- 昨年度かなりの実績があったのは、非常に嬉しく思う。今回2年目ということで、昨年度使ったコンテンツで、令和7年度も使えるものはぜひ活用するとよい。うまくいった部分は、ぜひ今回もどんどん取り入れていただきたい。
- ジェネレーターで、なにゆえ私が福祉職の後に続く言葉をいろいろ選択できる点は、先生や学生だったり応援する人が投稿できるので、いろんな方が投稿できて良い。
- 実際にサービスを利用している当事者やご家族にも参加してもらおうというのはよい。また、SNSの中で双方関係が成り立つよう、自分が行っていることや自分が考えている介護職と、実際の当事者のご意見が分かるというような場面のページもちょっと面白い。
- 事業所の公式SNSで発信していただくと伝わりやすい。
自治体のSNSなどで、キャンペーンへの賛同のシェアや発信をしていただくとよいのではないかな。

①キャンペーン盛り上げのアプローチ方法について 2 / 2

※○第1回専門部会での意見 ●意見票に記載の意見

- 普及啓発部会のこのような活動を、人材確保部会とも連携しながら、取組を進められていけると良いと思う。
- 福祉職は、勤務時間がバラバラで、夜勤で働いている人は、ラジオを意外と聞くような人が多い。ラジオと連携をしてSNS投稿する形だと非SNSの人を取り込めたりしないかなと思う。
若い世代向けに動画投稿を促すのはどうか。音源を利用して動画を作成するので、使いたくなるような音源を用意するなど。
- ビジネスケアラの問題がすごく出てきている。企業の人事担当者からの投稿を依頼するのも一つの手段かと思う。

【児童分野の巻き込み策】

- 児童養護は福祉の中でも狭い分野で、メインはやはり高齢者とか障害の方。そもそもの福祉としての認知度が低いというところが一つ課題としてある。
- 保育は高齢・障害とは毛色が違うという認識は強いが、子供が障害を持つと、とたんに「福祉」に入ってくる。ここの概念を変えられない限り、保育士を巻き込むための大きな課題だと思う。
親御さんのケアの問題だとか、ヤングケアラの話だとかそういうのは出てきている。保育士が完全に高齢分野や障害分野とは別でやり続けることが難しくなっている。この点を学んでいかないと、保育士も、いろいろなお子さん、親御さんのフォローができなくなっているように思う。

② SNS非アクティブ層の巻き込みについて

※○第1回専門部会での意見 ●意見票に記載の意見

- 自分の大学では、SNSの投稿で自分の顔は出たくない、名前も嫌という学生もいる。自分のSNSに投稿すると、そこにフォローしている友達に見られることの恥ずかしさのようなものもある。個人でやるよりも、例えば施設で、リレー形式で投稿を促す方法は有効だと思う。
- SNSアクティブでない層はTV・新聞等で情報を得ていると思われる。予算上可能であれば、新聞広告の掲載やTVでの情報発信ができると良いのでは。また都営バス・地下鉄内・駅構内での動画広告やポスター掲示もありかと思う。
- ポスターの掲出やチラシ、パンフレット等の配布など、従来の紙媒体の活用も一定程度必要と考える。
- 東京都老人保健施設協会、日本ホームヘルパー東京都支部などの各協会の定期発送時に紙ベースのチラシを発送してもらう。各協会で盛り上がっていただけると良い。また、各協会にインタビュー依頼をしてキャンペーン参加を募るのも有効だと思う。

③ キャリアパスの見せ方について（1／2）

- 同心円状のキャリアマップはとてもいい。10年目エリアを見ると、施設長のほか認定介護福祉士、ケアマネの事業者、主任ケアマネなど、多様な人がいることがわかる。1年目、2年目よりもいろんな選択肢があるということも見せられてすごく良い。
あまり増やすと見づらくなるので、主要な部分ということで児童や障害、高齢の3つの分野で、いろいろ選択肢があるのを見せられるといい。

③ キャリアパスの見せ方について（2 / 2）

※○第1回専門部会での意見 ●意見票に記載の意見

- 児童分野のキャリアパスについて、最終的に施設長を目指す、管理部門を目指すよりも、専門性を高めたいという考え方がある。児童養護で働きたいならファミリーソーシャルワーカーを目指したり、アフターケアをしたいなら自立支援担当職員など。常に現場で子どもたちを見ていたいという職員も多い。
- 今回の部会で提示された円状のキャリアアップ図は大変有効。各分野において、将来、ケアワーク（現場）、ソーシャルワーク（相談援助）、コミュニティワーク（地域福祉）、マネジメント（事業所管理等）のどのエキスパートを目指したいかによって、キャリアルートや必要な資格が大まかにでも経験年数で分かるような図になるとなお良いと思う。
- 分野別の共通ステップアップの見せ方の図は大変わかりやすいと感じた。すべてを見せることは不可能なので、欄外に「このほかにもたくさんの職種、ステップアップの方法があります」などの注釈を入れ、図はキャリアパスの主なものを一例として図示してみても良い。

その他ご意見等

- この業界は、事業所が多いので、働き方の選択肢が多いという特徴がある。一生懸命働きたい人も、極力少しいいとも考える人も、希望の働き方が選べる。これはこの業界の良さだと思う。
- ライフワークバランスの話も重要だと思う。実際の現場スタッフの日常（仕事の流れ・趣味・休日の過ごし方等）を動画等で発信できれば良い。
- 現実の人口推計から推察される未来のケア環境をもっと赤裸々に訴えていくべきと考える。「皆でどうにかしないといこうなってしまうよ！だからみんなでケアを大事にしていきましょう」と訴え、自責的（ジブンゴト）にしていくきっかけ、種まきをもっとしていくことが大事だと思う。